

『遼上京文物擷英』『遼上京契丹記憶』中の八思巴字漢語“gi 収”印

吉池孝一

『遼上京文物擷英』(2005年,184頁)および『遼上京契丹記憶』(2014年,56頁)に遼上京漢城遺址出土の遼代銅印として同一の印が紹介されている。この印の印文が、パスパ文字の“gi”と漢字の“収”であることは吉池(2012)で指摘した。同様の“gi 収”印を孫慰祖(2001:403-404)は5顆収録し、漢語で“記収”と読んでいる。

両書は、この印を遼上京漢城遺址出土とするから、後代の元のパスパ文字漢語の私印が何らかの事情により、遼代の文物に混入したのである。なお両書は、他に幾つかの私印を、パスパ文字漢語印とともに遼代のものとして紹介するわけであるが、パスパ文字漢語印と同様に、元代のものが混入している恐れもあるので注意が必要である。

【参考文献(発行年順)】

孫慰祖(2001)『唐宋元 私印押記集存』上海：上海書店出版社。

唐彩蘭(2005)『遼上京文物擷英』呼和浩特市：遠方出版社。

吉池孝一(2012)「八思巴字漢語私印一顆 —“朱”印—」『KOTONOHA』第117号,1頁。

劉喜民(2014)『遼上京契丹記憶』呼和浩特市：內蒙古出版集團、遠方出版社。